

# アグロケア® 水和剤

日本曹達(株)農業化学品事業部 普及グループ



## はじめに

アグロケア水和剤は、静岡県にある日本曹達(株)の研究所で栽培している茶葉から発見された微生物殺菌剤です。

平成16年度よりNR-20の試験番号で日本植物防疫協会の委託試験を開始し、果菜類の灰色かび病・うどんこ病に対して実用的な効果を得、2009年11月18日付で農薬登録(農林水産省登録:第22516号)を取得し、翌年2月より販売を開始しました。

ここに本剤の作用特性、使用方法等についてまとめましたので、実際の防除やご指導の際の参考となれば幸いです。

## 有効成分と製剤

有効成分:バチルス ズブチリス

HAI-0404株の生芽胞  $5 \times 10^9$ CFU/g

性状:類白色水和性粉末

剤型:水和剤

安全性 (概要:詳細は本誌P.39~41を参照ください)

## 特長

本剤は、*Bacillus subtilis* HAI-0404株を活性成分とし、主として果菜類の灰色かび病・うどんこ病に対して予防効果を示します。

アグロケアは従来の微生物農薬と比べて、作物に対する汚れが、とても少ない剤です。

また、本剤は低温(10℃以上の環境)でも効果を発揮しますので、無加温ハウスや高冷地でも使いやす

剤です。

更に、使用回数に制限がなく、農薬の使用回数にカウントされません。

使用方法 (上手な使い方概要:詳細は本誌P.29~38を参照ください)

野菜類の灰色かび病、うどんこ病に1,000~2,000倍、トマトの葉かび病には1,000倍に希釈し、10aあたり100~300Lを散布してください。

定植前からの予防散布を行うことで、病原菌を本圃に持ち込まないようにしましょう。

予防散布により効果を発揮しますので、発病前から発病初期に7日~10日間隔で散布してください。

定植前に病害の発生がある場合は、化学農薬で防除し、菌密度を下げてから本剤を7~10日間隔で散布してください。

いずれの場合についても、化学農薬との体系防除で計画的な散布を行うことで、病害の発生を抑えることができます。

有効成分は生菌ですので、散布液調整後はできるだけ速やかに散布してください。また開封後は密封保管し、できるだけ早く使いきってください。

## おわりに

アグロケア水和剤は従来にない優れた特長を持った防除剤です。本剤の特長をご理解いただき、体系防除の1剤として有効に使用していただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、本剤の開発にご協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。本剤の使用に關しまして、引き続きご指導を賜りたく宜しくお願ひ申し上げます。